

問 生分解性マルチへの町の助成は

答 導入支援を検討します

問 生分解性マルチは、畑にすき込むことにより、微生物の働きで水と二酸化炭素に分解される便利な資材です。多古町での現状の使用状況をお示し下さい。

産業経済課長

畑作の経営面積の大きい生産者が導入している傾向があります。野菜収穫後のマルチの回収処理が不要なことから、農作業の省力化、軽労働化を図ることができ、農村地域の課題である高齢化や労働力不足の解決にも資するメリットを有しております。品目的にはトウモロコシ、レタス、オクラ、カボチャ等に使われており、ジャガイモ、落花生、キャベツ等にも使われ始めていると聞いています。ただ、価格が通常マルチの約3倍と非常に高価なため、全て生分解性マルチに移行できていないかというところでもない状況もあります。

問 生分解性マルチのもう一つの重要な点が、温室効果ガス削減に有効な役割を果たすというSDGSの視点です。土中で分解するため、廃プラスチックを出しません。地球温暖化対策のごく一部ではありますが一つの有効な手段です。この点について町の認識は。

産業経済課長

環境にやさしい農業を推進していく中で先端的技術であり、労働力確保が難しい農村では一つの切り札になっていくのかなという認識であります。

問

国も県も生分解性マルチの有効性について注目し、普及促進策を打ち出していますがその具体的な内容についてお示し下さい。

産業経済課長

国では「みどり戦略」の実現に向けた政策推進の中



自然環境を守るために

問 子ども食堂への協力範囲は

答 PRや声かけ等で協力します

問 歴史文化を国内外問わず知ってもらうために

問 多古町には旧石器時代から中世、近世と続く歴史文化が残されています。トランジットをはじめ、関係人口、交流人口の創出を目的とし、国内外にアピールするため、資料館を多古町に準備しているのはいかがでしょうか。

教育長

資料館として早急に建物を建設することは難しいと考えています。そのため、道の駅やコミュニティプラザの一角など、展示コーナーとしてできないか考えています。

町の文化度上昇を

問

多古町の郷土史家が重要な多古町独自のいろいろな文献を図書館に預けているという話を聞きました。そのような文献はどのような方法で私たちに公開されますか。

生涯学習課長

昨年度、約一千冊の寄贈をいただいております。現在、司書が配架できるように準備・整理しております。

子ども食堂の今後は

問

子ども食堂をしているときは、チラシを配ったり、ポスターを貼ったりして、2017年度から活動していました。コロナのことがあり、だいぶ休んでいましたが、再開に向けて相談しているところです。町もできる範囲で協力しますよという言葉をお願いしたいと思います。どの範囲で協力いただけるか伺います。

子育て支援課長

子ども食堂は、幅広い世代の子どもからお年寄りの交流拠点として、多古町で重要な役割を担っていると考えています。子どもからお

菅澤 博隆 議員

所要時間 90分



で、導入促進にかかる支援費用を算化しています。県では生分解性マルチの緊急導入支援事業が予算化され、生産者団体、組合、協議会を対象に事業費の3分の2、上限10万円当たり2万円の補助金が交付されることとします。

問

国、県の支援策を受けて、町としてもぜひ、購入費用の一部助成をご検討いただきたいと思います。町の方針をお示し下さい。

町長

本町としても生分解性マルチの有効性、国が進めるグリーンな栽培体系普及の必要性を認識しており、SDGsや生産者の声を総合的に勘案して、今後の支援策を検討してまいります。

インボイスによる免税事業者支援は

問 本年10月1日からインボイス制度がスタートします。シル



働きやすい環境を

バー人材センターで働く事業者の皆さんはほとんどが免税事業者で、インボイス制度の影響を受けると思われますが具体的な支援策をお示し下さい。

産業経済課長

シルバー人材センターでは、インボイスのみならず物価や人件費の上昇に対応するため、やむを得ず発注者からいただく事務費率を今までの10%から12%に値上げさせていただき、円滑な運営を目指す聞いております。町としても運営補助金を今までの450万円から500万円に増額しており、町補助金と同額が国からも助成されますので計100万円の増額助成になります。また、町が発注する事業の委託費に際してもセンター側の要望どおり適正な額を予算化しております。今後もシルバー人材センターから相談があれば適宜対応を検討してまいります。

その他の質問

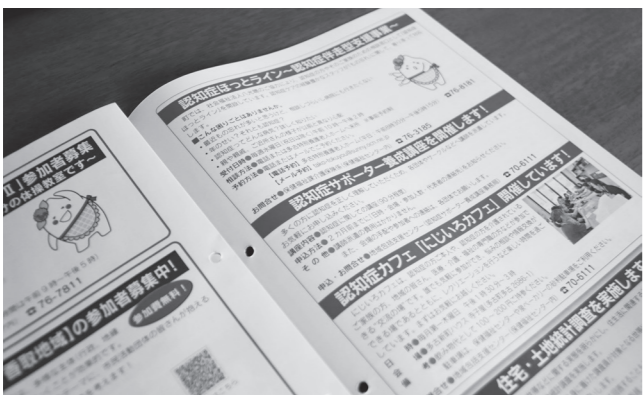
●建設残土問題について

現在、これらの事業を進めています。**問** オレンジリングは広めています。すか。それとも認知症サポート養成講座を申し込んでくださいということと解決していますか。また、認知症ホットライン、認知症伴走型支援の「伴走型」の意味を伺います。

保健福祉課長

認知症サポートの養成講座は広報等で周知した中で、毎年実施しています。認知症伴走型支援事業は、ご相談をきっかけに、その課題解決のため関係機関とつなぎ、常にその機関と、当事者、ご家族がつながりを持った状況が継続されるような、支援という事です。

認知症の理解を
問 広報9月号で認知症の特集を組んでいるように感じました。認知症は増えているのでしょうか、増えている人が多いのでしょうか。特集の意図と認知症カフェ等も行ったか伺います。
保健福祉課長 広報については特集という位置づけではなく、掲載時期が重なったことにより複数の記事となりました。認知症カフェについては令和元年度から取り組んでいます。高齢化率が高まる中で、ご家族を含め、様々なご相談をいただいています。当事者、ご家族を含め、孤立しないような環境作りが大切だと考えます。そのため



認知症の理解を深めるために



知ってほしい多古町の歴史